

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践
および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究

専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデルの構築（神経ブロック等）

研究分担者 松本禎久 がん研究会有明病院緩和治療科

研究要旨：がん患者のQOLを阻害する難治性がん疼痛に対する専門的がん疼痛治療が、患者に適切に提供できていないことが過去の調査から示唆されている。神経ブロック等の専門的がん疼痛治療が患者に適切に提供されるようになるために、過去の専門医及び医療機関を対象とした調査の分析から専門的がん疼痛治療提供の障壁を分析し対策を講じる必要がある。本研究では、神経ブロック等の専門的がん疼痛治療に関する地域連携体制の好事例の収集し、各地域の取り組みについて分析し公開する。さらに、専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステムの構築を行う。

A. 研究目的

がん患者の治療期・療養期における苦痛は生活の質(QOL)を著しく阻害する。抗がん治療中の患者の約55%、進行がん患者の約66%が痛みを有することが知られる。また終末期において、痛みが少なく過ごせた患者は47.2%で半数が苦痛と共に最期を迎えている。また、がん疼痛治療にかかる専門医および医療機関を対象とした難治性がん疼痛治療に関する調査の結果、緩和的放射線治療、神経ブロックなど専門的がん疼痛治療について患者の治療・療養環境に関わらず提供可能な地域連携体制の整備が必要であること、が明らかになっている。

本研究では、がん患者のQOLを阻害する苦痛症状のひとつである痛みのなかでも特に難治性がん疼痛に対して、がん患者の治療・療養の場面に関わらずに苦痛緩和を促進することを目的とし、神経ブロック等の専門的がん疼痛治療に関するがん診療連携拠点病院を中心とした地域連携体制のモデル構築を行う。

初年度である本年は、過去に実施した専門医および医療機関を対象とした難治性がん疼痛治療に関する調査結果を用いた治療提供の障壁についての分析、神経ブロック等の専門的がん疼痛治療に関する地域連携体制の好事例の収集、専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステムの構築を行う。

B. 研究方法

過去の専門医および医療機関を対象とした難治性がん疼痛治療に関する調査の結果から治療提供の障壁について分析する。

つぎに、神経ブロック等の専門的がん疼痛治療の提供が行われている複数の地域の医療従事者を対

象にインタビュー調査を行い、好事例の収集を行い、各地域の取り組みについて分析する。

また、神経ブロック等について地域連携体制のモデルの在り方を検討し、好事例集の収集、専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステムの構築を行い、実施可能性、予備的な有用性に関する研究の立案をする。

（倫理面への配慮）

本研究に関係するすべての研究者は、ヘルシンキ宣言および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施した。

個人情報および診療情報などのプライバシーに関する情報は、個人の人格尊重の理念の下厳重に保護され慎重に取り扱われるべきものと認識して必要な管理対策を講じ、プライバシー保護に務めた。

C. 研究結果

過去のがん疼痛治療にかかる専門医および医療機関を対象とした難治性がん疼痛治療に関する調査の結果からは、ペインクリニック専門医による神経ブロックや脊髄鎮痛法においては、「症例数が少ないため、経験を積むことや技術の取得が難しい」「時間がないため実施が必要な患者を診療することが難しい」といった障壁が示された。また、施設調査においても、「技術的に実施できる医師がいない/少ない」、「技術的に実施できる医師はいるが勤務状況のために実施できない」という手技実施側の障壁も明らかとなり、専門医での障壁と矛盾しない結果であった。また紹介をする側の障壁として、「自施設から紹介できる地域の実施可能な施設についての情報が得られず利用ができない」

「治療の適応についての相談ができる窓口が分からない」「紹介先の医師と繋がりが無い(顔が見えない)」「自施設から紹介できる地域に実施可能な施設がない」「治療の適応を判断するための勉強をする機会がない」「適応を判断できる医療者がいない」といった項目の割合が高く、「連携」「教育」という点に障壁が示された。

明らかになった障壁を踏まえ、専門的がん疼痛治療地域連携システムの運用に向けて、神経ブロック等のコンサルテーション体制構築に着手した。

神経ブロック等の専門的がん疼痛治療の提供が行われている複数の地域の医療従事者を対象に行うインタビュー調査の内容を定め、好事例の収集に着手した。

D. 考察

過去の調査から明らかになった障壁に対する対策を講じることで、患者に適切に神経ブロック等の専門的がん疼痛治療が適切に提供されるようになることが期待される。

神経ブロック等の専門的がん疼痛治療に関する各地域での好事例の収集・分析・公開、さらにはがん診療連携拠点病院を中心とした地域連携体制のモデルとしての専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステムの試験的運用を行うことにより、過去の調査から明らかになった障壁への対策となりうる。後者においては、実施可能性と予備的な有用性を評価する必要がある。

E. 結論

過去の調査結果から専門的がん疼痛治療提供の障壁を分析し、専門的がん疼痛治療地域連携システムの運用に向けて、神経ブロック等のコンサルテーション体制構築に着手した。また、地域連携体制の好事例の収集に着手した。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Uehara Y, Matsumoto Y, Kosugi T, Sone M, Nakamura N, Mizushima A, Miyashita M, Morita T, Yamaguchi T, Satomi E. Availability of and factors related to interventional procedures for refractory pain in patients with cancer: A nationwide survey. *BMC Palliat Care*, 2022; 21(1): 166.

2) 松本禎久・森雅紀・田上恵太編. がんの痛み治療テキスト. 南江堂(東京), 2023年3月25日.

3) 松本禎久. 麻薬性鎮痛薬. *medicina*. Vol.59 No.10: 1742-1746, 2022.

2. 学会発表

1) Kosugi T, Matsumoto Y, Uehara Y, Sone M, Nakamura N, Morita T, Mizushima A, Miyashita M, Yamaguchi T, Satomi E. Barriers to interventional procedures for refractory cancer pain in Japanese designated cancer hospitals: A nationwide survey. IASP 19th World Congress on Pain, 19-23 Sep 2022, Toronto, Canada (Poster)

2) Matsumoto Y. Latest Pain Management. IASLC 2022 Asia Conference on Lung Cancer 27-29 October 2022, Nara・hybrid (Education Session, Oral).

3) 松本禎久, 上原優子, 水嶋章郎, 小杉寿文, 里見絵理子. がん診療連携拠点病院における難治性がん疼痛に対するサドルブロックの実施状況、障壁、教育: 全国質問紙調査. 日本麻酔科学会第69回学術集会(神戸) 2022年6月16日~18日. ポスターディスカッション.

4) 上原優子, 松本禎久, 水嶋章郎, 小杉寿文, 里見絵理子. がん診療連携拠点病院における難治性がん疼痛に対する脊髄鎮痛法の実施状況と障壁: 全国質問紙調査. 日本麻酔科学会第69回学術集会(神戸) 2022年6月16日~18日. ポスターディスカッション.

5) 松本禎久. いまからできる! 緩和治療・ケア領域の臨床研究. 第7回日本がんサポーターズ学会学術集会, 下関・ハイブリッド, 2022年6月18-19日. ワークショップ.

6) 松本禎久, 上原優子, 小杉寿文, 曾根美雪, 中村直樹, 森田達也, 水嶋章郎, 宮下光令, 山口拓洋, 里見絵理子. がん診療連携拠点病院における腹腔神経叢ブロック/内臓神経ブロックの実施状況、障壁、教育: 全国質問紙調査. 第7回日本がんサポーターズ学会学術集会, 下関・ハイブリッド, 2022年6月18-19日. ポスター.

7) 松本禎久, 上原優子, 小杉寿文, 曾根美雪, 中村直樹, 森田達也, 水嶋章郎, 宮下光令, 山口拓洋, 里見絵理子. がん疼痛に対するメサドン内服治療の実態、障壁: がん診療連携拠点病院以外の病院および在宅療養支援診療所を対象とした全国質問紙調査. 第27回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2022年7月1-2日. ポスター.

8) 里見絵理子, 松本禎久, 上原優子, 水嶋章郎, 曾根美雪, 小杉寿文, 中村直樹, 森田達也, 宮下光令, 山口拓洋. がん疼痛に対するメサドン内服治療の実態、障壁、教育: 緩和医療専門医・認定医対象全国質問紙調査. 第27回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2022年7月1-2日. ポスター.

9) 上原優子, 松本禎久, 小杉寿文, 曾根美雪, 中村直樹, 森田達也, 水嶋章郎, 宮下光令, 山口拓洋, 里見絵理子. がん疼痛に対するメサドン内服治療の実態、障壁、教育: がん診療連携拠点病院対象全国質問紙調査. 第27回日本緩和医療学会学術大

会, 神戸, 2022年7月1-2日. ポスター.

10) 松本禎久, 上原優子, 水嶋章郎, 小杉寿文, 曾根美雪, 宮下光令, 山口拓洋, 里見絵理子. がん疼痛に対する侵襲的鎮痛法のコンサルト状況と障壁施設対象全国質問紙調査. 日本ペインクリニック学会第56回学術集会, 東京, 2022年7月7-9日. 口演.

11) 松本禎久, 上原優子, 小杉寿文, 曾根美雪, 中村直樹, 森田達也, 水嶋章郎, 宮下光令, 山口拓洋, 里見絵理子. がん疼痛に対するメサドン内服治療の実態、障壁 日本在宅医療連合学会認定専門医対象全国質問紙調査. 第4回日本在宅医療連合学会

大会, 神戸, 2022年7月23-24日. 口演

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。